

[改訂二版]キッチンスペシャリストハンドブック正誤表

【お詫びと訂正】

この度は[改訂二版]キッチンスペシャリストハンドブックをご購入いただきありがとうございました。掲載内容につきまして、一部誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

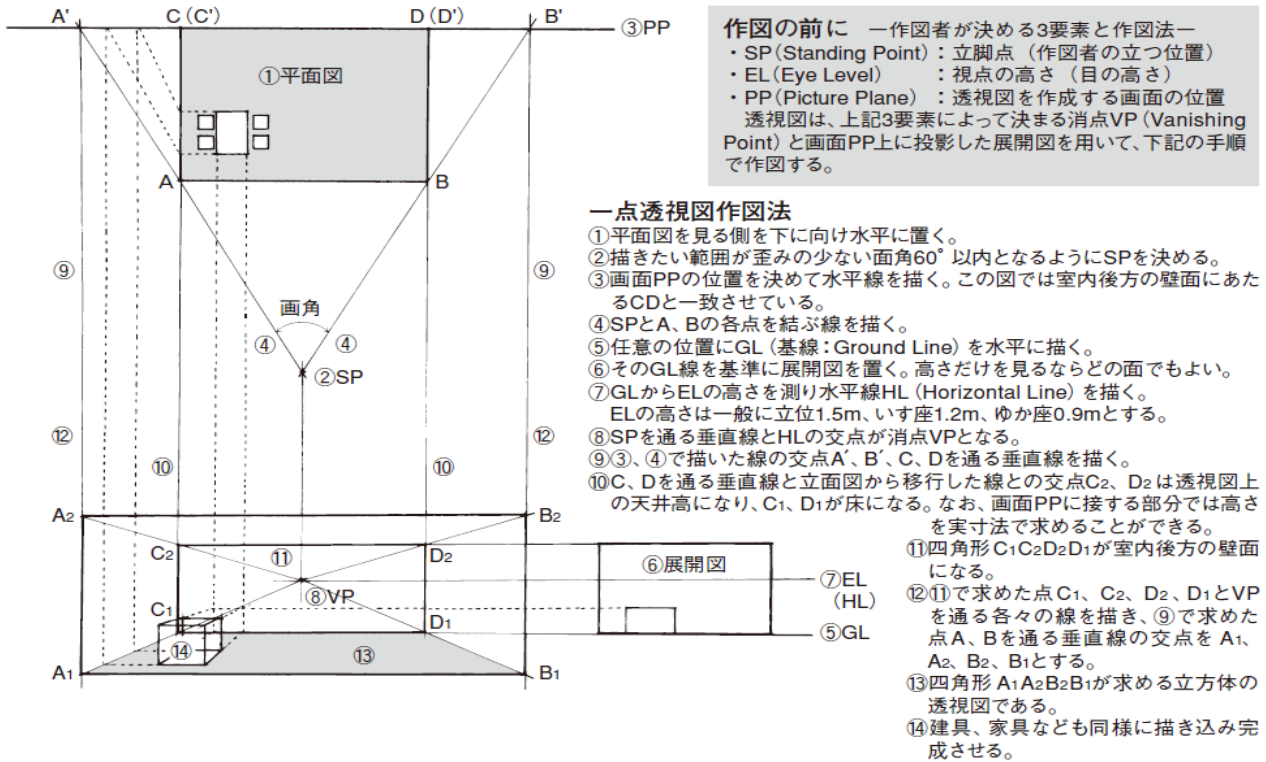
正誤表 (2022年10月1日時点)

◇本正誤表の対象となるハンドブック： 改訂二版 3刷(2020.11.10発行)

頁	行・図表番号	誤	正
14	右下から4行目	女性の方が上回っている費目は住居、光熱・水道、家具・家事用品、被服および履物、保健医療、交通・通信費である。女性は、住居や衣服にお金をかけ、洗濯や掃除など家事をこなすどちらかといえば在宅型のライフスタイルであるが、交通・通信が男性より高い。また、男性は、教養・娯楽、交際費にお金をかける非在宅型のライフスタイルといえよう。通信費の割合が高くなっているのは携帯、パソコンを多用する現代の特徴である。	女性の方が上回っている費目は、住居、被服および履物、保健医療、交通・通信費である。女性は、住居や衣服にお金をかけ、洗濯や掃除など家事をこなす在宅型のライフスタイルであるが、交通・通信も男性より多い。また、男性は、教養・娯楽、交際費など非在宅型のライフスタイルといえよう。男女共であるが、特に女性の交通・通信費の割合が高いのは、携帯電話、パソコンを多用する現代の生活が垣間見えている。
30	右下から20行目	、張り合わせた麻布	、貼り合わせた麻布
42	右下から4行目	板張りや	板貼りや
48	左上から10行目	200万年前に	約200万年前に
48	左下から7行目	90万年前の	約90万年前の
48	左下から6行目	50万年前の	約50万年前の
52	左下から13行目	木製亜鉛鉄板張り、人造石研ぎ出し、モザイクタイル張り	木製亜鉛鉄板貼り、人造石研ぎ出し、モザイクタイル貼り
77	右上から4行目	使用性よりも耐震時と操作時の安全性を優先させて、	使用性よりも震災時などでの物の落下に伴う吐水の防止を優先させて、
122	左下から2行目	色立体の縦断面ごと（すなわち各色相ごと）	色立体の縦断面ごと（すなわち色相ごと）
136	左上から1行目	化粧合板をフラッシュ芯に張り合わせて	化粧合板をフラッシュ芯に貼り合わせて
136	左上から13行目	薄い化粧板を張り合わせたもの	薄い化粧板を貼り合わせたもの
136	右下から9行目	平板化粧張り	平板化粧貼り
158	左下から9行目	電気こんろは、シーズヒーターをガス方式のバーナーの代わりに組み込んだ電気グリルタイプや電気オープンにグリル機能を内蔵したタイプがある。	電気式のグリルは、ガス方式のバーナーの代わりにシーズヒーターを組み込み短期間で焼き上げることができる。電気オープンにグリル機能やレンジ機能を内蔵したタイプもある。

頁	行・図表番号	誤	正
167	左下から11行目	<p>1) 給水とは 遊離残留塩素が給水栓において0.1mg/L以上保持する、病原生物や有害物質を含まないなど、水道法で定めた水質を保つことが必要である。 給水栓での必要圧力は300～400 kPa程度である。10 m水柱（ヘッド）の静水圧は、98 kPa（旧単位では1 kgf / cm²）である。</p>	<p>1) 給水とは 水道事業者の配水管から住宅のメーター等を経由して給水管・直結給水用具（給水栓・洗浄弁・給湯器等）を正常に作動させるためには、使用状況にもよるが、給水管の水圧は0.30～0.40MPa（最小動水圧0.15MPa）に、給水用具の水圧は0.03～0.07MPa（一般には0.05MPa）程度に保つ必要がある。水柱10mの底面での静水圧は0.098MPaであり、動水圧は管内の水が流れる状態で測定したものである。（図3-4-2） また、給水栓における遊離残留塩素の含有率を百万分の0.1以上（病原生物に汚染されるおそれがある場合などは百万分の0.2以上）に保持するなど、水道法で定めた水質を保つことが必要である。</p>
199	図4-1-20		
220	右下から10行目	<p>技は、受験者の「キッチン計画に関するプレゼンテーション能力を判定する」として設定され、出題・採点がなされる。</p>	<p>技試験は、キッチン空間の企画・提案に関し、説得力のあるプレゼンテーションの作成などの基礎能力を有しているか否かが審査される。</p>
230	左下から5行目	<p>:壁下地にボードを貼り、</p>	<p>:壁下地にボードを張り、</p>
283	右上から19行目	<p>そこで、一般的には営業総利益（つまり、営業諸経費・管理費を含んだ利益、粗利益ともいわれる）を製品原価に加えて見積価格を算定するが、実際には製品原価に予め定められている粗利益率を乗じて見積価格として提出する例が多い。</p>	<p>そこで、一般的には売上総利益（つまり、営業諸経費・一般管理費を含んだ利益、粗利益ともいわれる）を売上原価に加えて見積価格を算定するが、実際には予め定められている粗利益率を用い、売上原価を1－粗利益率で除して見積価格として提出する場合がある。</p>

図4-1-20 一点透視図の描き方(直接法)



作図の前に 一作者が決める3要素と作図法—
 ・SP (Standing Point) : 立脚点 (作図者の立つ位置)
 ・EL (Eye Level) : 視点の高さ (目の高さ)
 ・PP (Picture Plane) : 透視図を作成する画面の位置
 透視図は、上記3要素によって決まる消点VP (Vanishing Point) と画面PP上に投影した展開図を用いて、下記の手順で作図する。

一点透視図作図法

- ①平面図を見る側を下に向け水平に置く。
- ②描きたい範囲が歪みの少ない面角60°以内となるようにSPを決める。
- ③画面PPの位置を決めて水平線を描く。この図では室内後方の壁面にあたるCDと一致させている。
- ④SPとA、Bの各点を結ぶ線を描く。
- ⑤任意の位置にGL (基線: Ground Line) を水平に描く。
- ⑥そのGL線を基準に展開図を置く。高さだけを見るならどの面でもよい。
- ⑦GLからELの高さを測り水平線HL (Horizontal Line) を描く。
ELの高さは一般に立位1.5m、いす座1.2m、ゆか座0.9mとする。
- ⑧SPを通る垂直線とHLの交点が消点VPとなる。
- ⑨③、④で描いた線の交点A'、B'、C、Dを通る垂直線を描く。
- ⑩C、Dを通る垂直線と立面図から移行した線との交点C2、D2は透視図上の天井高になり、C1、D1が床になる。なお、画面PPに接する部分では高さを実寸法で求めることができる。
- ⑪四角形C1C2D2D1が室内後方の壁面になる。
- ⑫⑪で求めた点C1、C2、D2、D1とVPを通る各々の線を描き、⑨で求めた点A、Bを通る垂直線の交点をA1、A2、B2、B1とする。
- ⑬四角形A1A2B2B1が求める立方体の透視図である。
- ⑭建具、家具なども同様に描き込み完成させる。